

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名 グループホーム Ring

日付 平成17年3月31日

特定非営利活動法人

評価機関名 高齢者と痴呆の人のケアを大切にす会

LIFE SUPPORT推進グループ

評価調査員 在宅介護経験8年

評価調査員 在宅介護経験10年

評価調査員 在宅介護経験8年

評価調査員 老人保健施設介護及び介護支援専門員8年

自主評価結果を見る (まだリンク先はありません)

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

Ⅰ 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
	「Life is...」「Someday」1階と2階に付けられた呼称である。人間の人生の大切さと生き方を考えさせられる目標である。認知症高齢者に、「安心して、穏やかに喜んで生活できる場」を提供して、「その人らしい生き方」をして貰えるには、どのようにしたら良いかを、職員が考え、実践していこうとする共通の課題である。それら一つずつ具体的な思慮と行動に結び付けて「利用者一人ひとりが生きてきたその人の人生を知り、ご家族との豊かな関係を維持し、大切に思い、これからもその人らしい生活を続ける為の支援」を実現しようとしている。		

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
	窓際にあるソファや畳のベンチが利用者皆んなのやすらぎの場となっているが、食卓テーブルも結構活用して、歌を歌ったりお話しをして利用者や職員同志のコミュニケーションの場となっている。ソファには色とりどりのクッションが置かれ、そばには編み掛けの毛糸がある。散歩に出て摘んで来た花が花瓶に生けてある。人の気配を感じられる。ホームの前には広い庭があり、アプローチの周りには花畑、奥に菜園があり、春になるときれいになり心を和ませてくれるだろう。		

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせて調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

外部評価の結果

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

永年、大きな施設で高齢者ケアを経験した挙句に、認知症高齢者ケアの原点をグループホームに求めた施設長の元に、その意に共感する職員が集まり、地域の医師を始め、町の人々の協力を得て、新しいグループホームが立ち上がった。

朝、ホームに到着すると、若い職員の出迎えとワンちゃん3匹、ブタくん1匹、ニワトリ5羽の大歓迎に「今日は面白そうぞ」と期待が膨らんだ。利用者は、この地域の人が多く、みんなざっくばらんに付き合ってくれた。「今から1階の人はお寿司を食べに行くんですけど。どうしますか?」と施設長の言葉に「じゃあ1人だけ連れて行って下さい」ということで、今日の調査場所はおすし屋さんとグループホームとなった。

「毎日、朝起きると、庭掃除をして、ゴミの片付け、家の中の掃除をして働くんですよ」「働くとお飯もおいしいし、元気が出てネ、それで今日はみんなでお寿司を戴くんです」と出掛けて行った。回転寿司でビールを飲み、お腹いっぱい食べて、歌も賑やかに歌ったとか。

2階の人は、「陽当たりの良いソファでゆっくりしている人」「台所で昼ごはんの調理を手伝っている人」「お風呂に入っている人」一人ひとりが自分の出来る事を、それぞれのペースでゆっくりと生活している。「社長(施設長)が良くしてくれてね工」「みんな幸せですよ」「ここが一番良いです」と口々に教えてくれ、自分の身も心もホームに預け、安心しきっている様子が見え、伝わってきた。

特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした

今でも、「at home」という空気を十分に感じるが、家族や地元のボランティアの人達の応援が加われば、地域にももっと風通しが良くなり、利用者も更に新しい刺激を感じてくれるのではないだろうか。人はどんなに歳を重ねても、晴れがましい自分を見て欲しいと思っている筈。その人らしい輝きが見れる写真や作品を飾り、昔を話し合える仲間をつくってあげて欲しい。

グループホームの“たより”(予定している)を早く実現して頂き、家族へ元気な姿を知らせて貰ったり、地域の人に認知症の理解を得る情報源としても貰いたい。

Ⅲ ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせて入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物物の支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		

記述項目 一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か

「利用者の持っている能力は、限られたものでなく、能力を発揮する“きっかけ”があれば、新たな能力を発見して目を見張るものがある」と職員は言う。他の福祉施設や病院から、このホームに移って来た利用者の状態(身体機能や認知症特有の症状、排泄トラブル、摂食等)が少しずつ改善され、自立に近い状態まで向上したと言う話や記録から、ケアの質の高さや利用者一人ひとりの能力の引き出しの巧さを感じる。1日の日課となるような仕事を、本人の負担にならないよう利用者の気持を良く確認しながら組み合わせている。職員の仕事への誘導の言葉かけが実に巧い。ざっくばらんな言い方だけれど、利用者の意欲を盛り上げている。しっかりと見守りながら、色々な生活を支援している管理者や職員の日々の努力を見ることが出来た。

Ⅳ 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		

記述項目 サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。

認知症高齢者のケアをする職員の資質は、介護専門職の経験というよりは、高齢者や認知症の人と心の通じ合える人間性だと言う。施設長の意に叶う職員を集めるのにも苦労したと思うが、管理者や職員から受ける印象は、とても明るく個性豊かな人材であり、利用者とうまいお付き合いをしている。家族の来訪も多く、電話連絡をしたりしている地元の人も多いことから、多分に頼りになる家族になるだろうと思う。

この施設長ならと地元の人も歓迎してくれたと聞く。利用者が一寸外に出て、近所の人々が協力して見守ってくれたり、連絡してくれる。町内会の活動にも参加したり、中学生の職場体験など受け入れて交流も盛んである。このグループホームが岡山県北部のリーダー格となって福祉介護のネットワークが構築され、寄与されることを期待している。